

Ⅱ 結果の内容

《災害への備えについて》

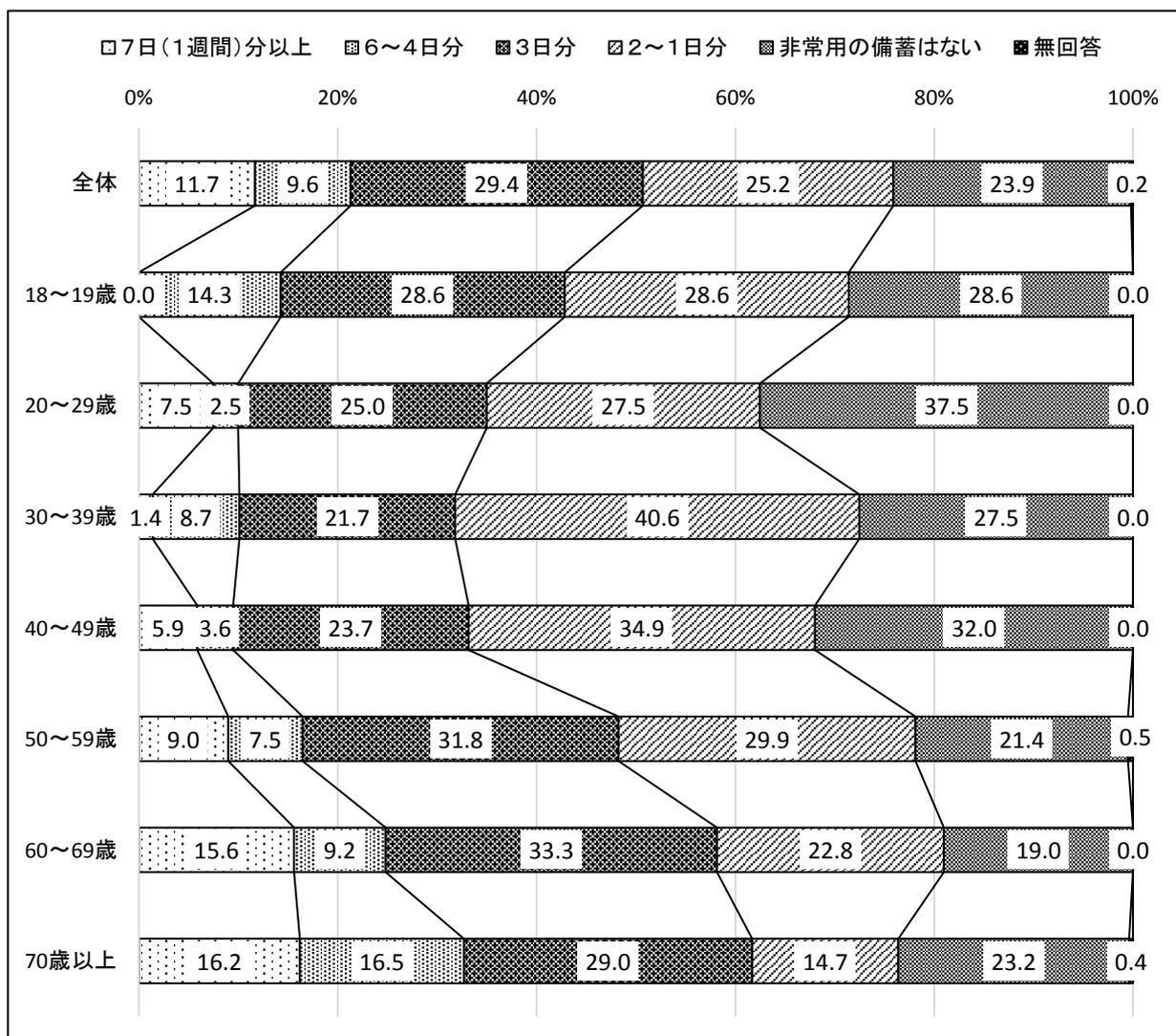
＜食料品等の備蓄状況＞

県が最低限として推奨している3日以上の備蓄をしている人が約5割

問1 あなたのお住まいでは、非常用として(家族分を含め)何日分の食料を備蓄していますか。
(〇は1つ)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
7日(1週間)分以上		124	11.7
6～4日分		102	9.6
3日分		312	29.4
2～1日分		267	25.2
非常用の備蓄はない		253	23.9
無回答		2	0.2

●3日以上の備蓄割合について、年代別では30代が最も少なく、年齢が上がるほど高くなっている。



<3日分以上の食料を用意していない理由>

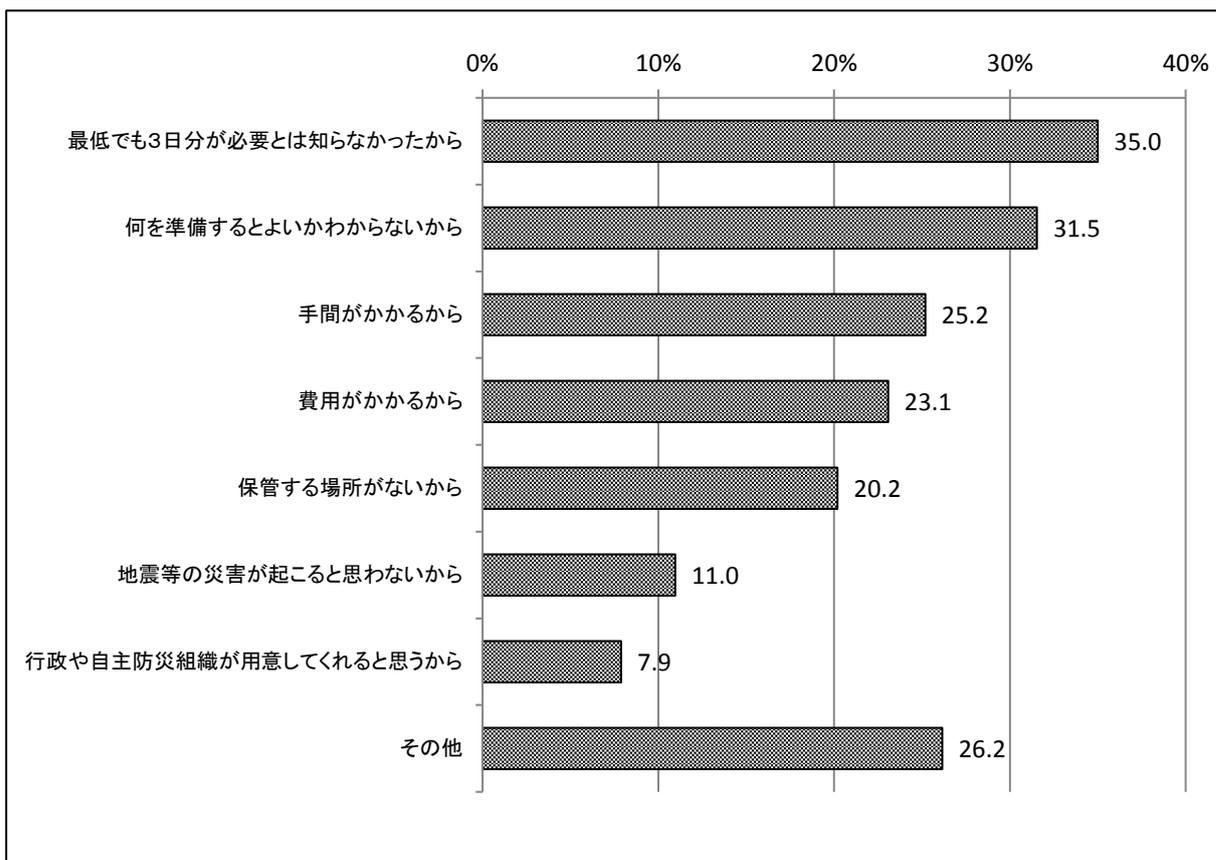
「最低でも3日分が必要とは知らなかったから」が3割超、「何を準備するとよいかわからないから」が約3割

問2 問1で「2～1日分」又は「⑤非常用の備蓄はない」を選ばれた方にお伺いします。

県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、最低でも3日分、可能な限り7日(1週間)分の用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ3日分以上の食料を用意していないのはどのような理由ですか。(〇はいくつでも)

	n= 520	回答数 (人)	割合 (%)
最低でも3日分が必要とは知らなかったから		182	35.0
何を準備するとよいかわからないから		164	31.5
手間がかかるから		131	25.2
費用がかかるから		120	23.1
保管する場所がないから		105	20.2
地震等の災害が起こると思わないから		57	11.0
行政や自主防災組織が用意してくれると思うから		41	7.9
その他		136	26.2

●「最低でも3日分が必要とは知らなかったから」が35.0%と最も高く、次に「何を準備するとよいかわからないから」(31.5%)、「手間がかかるから」(25.2%)となっている。



その他としては「備蓄していたものの賞味期限が切れた」、「備蓄ではない通常の食料が十分にある」、「農家だから不要」等の回答が見られた。

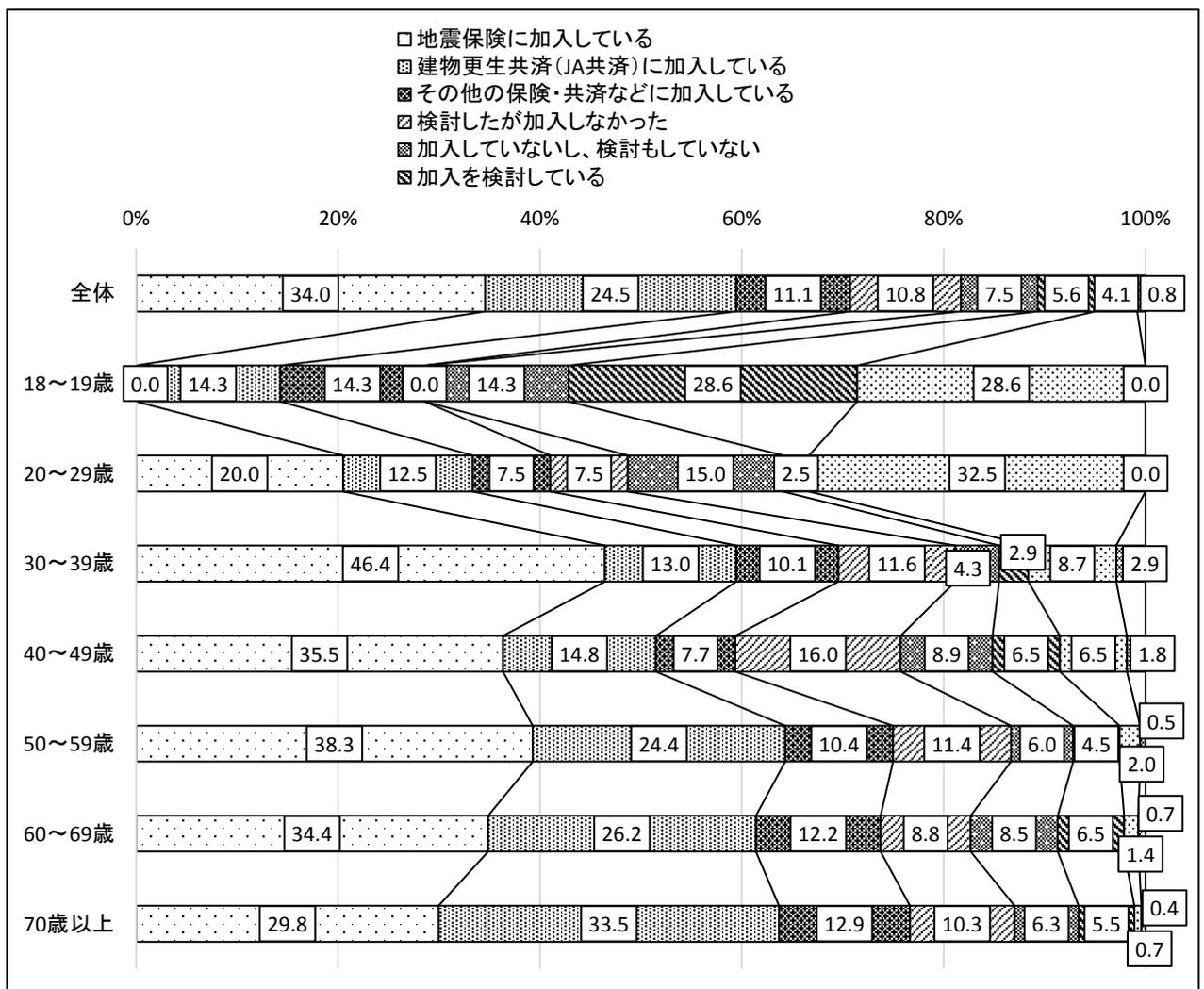
<地震保険・共済への加入状況>

「地震保険に加入している」「建物更生共済(JA共済)に加入している」「その他の保険・共済などに加入している」が合わせて約7割

問3 あなたのお住まいでは、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。
(○は1つ)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
地震保険に加入している		360	34.0
建物更生共済(JA共済)に加入している		260	24.5
その他の保険・共済などに加入している		118	11.1
検討したが加入しなかった		115	10.8
加入していないし、検討もしていない		80	7.5
加入を検討している		59	5.6
わからない		43	4.1
その他		9	0.8
無回答		16	1.5

●一般的に家を持つ30代以上の加入率について、70代以上が76.2%と最も高く、40代(58.0%)が最も少ない。



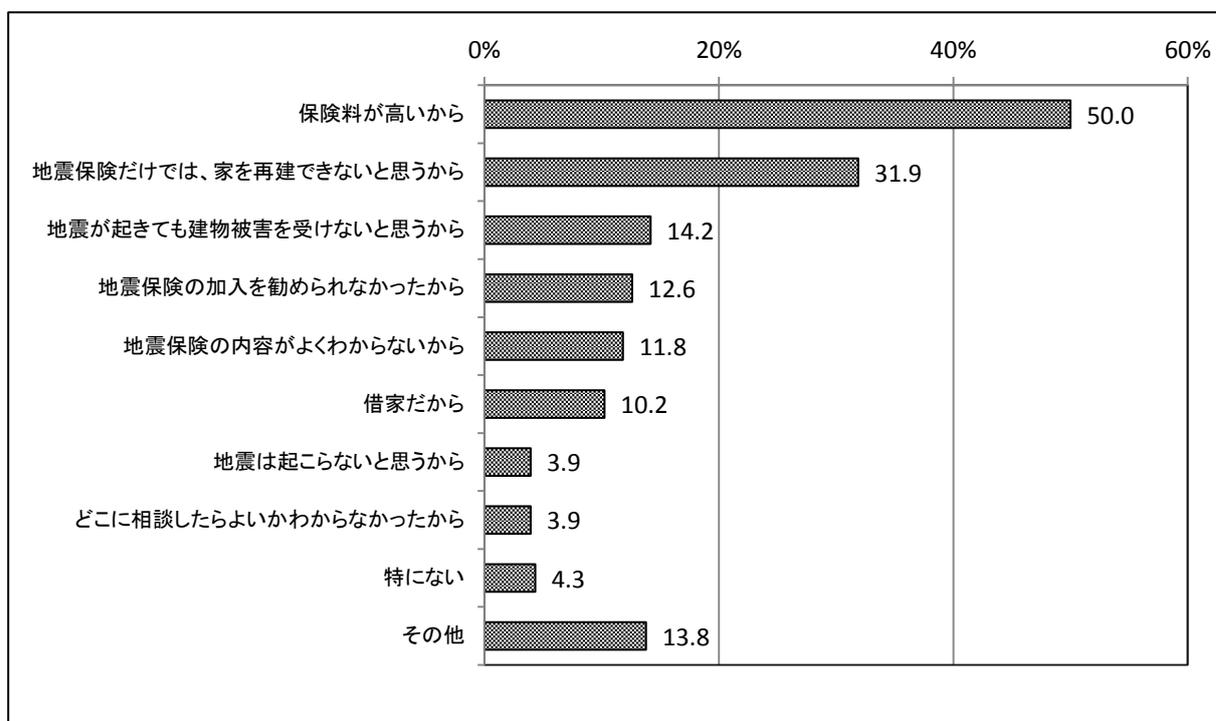
<地震保険・共済に加入していない理由>

「保険料が高いから」が約5割、「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」が約3割

問4 問3で「④加入を検討している」「⑤検討したが加入しなかった」「⑥加入していないし、検討もしていない」のいずれかを選ばれた方にお伺いします。
地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	n= 254	回答数 (人)	割合 (%)
保険料が高いから		127	50.0
地震保険だけでは、家を再建できないと思うから		81	31.9
地震が起きても建物被害を受けないと思うから		36	14.2
地震保険の加入を勧められなかったから		32	12.6
地震保険の内容がよくわからないから		30	11.8
借家だから		26	10.2
地震は起こらないと思うから		10	3.9
どこに相談したらよいかわからなかったから		10	3.9
特にない		11	4.3
その他		35	13.8

●「保険料が高いから」が50.0%と最も高く、次に「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」(31.9%)、「地震が起きても建物被害を受けないと思うから」(14.2%)となっている。



その他としては「築年数が経過しているから」、「耐震構造にて新築したから」、「旧耐震基準の建物の為保険料が高くて加入できない、補強工事するにも金銭的余裕がない」等の回答が見られた。

《多文化共生社会について》

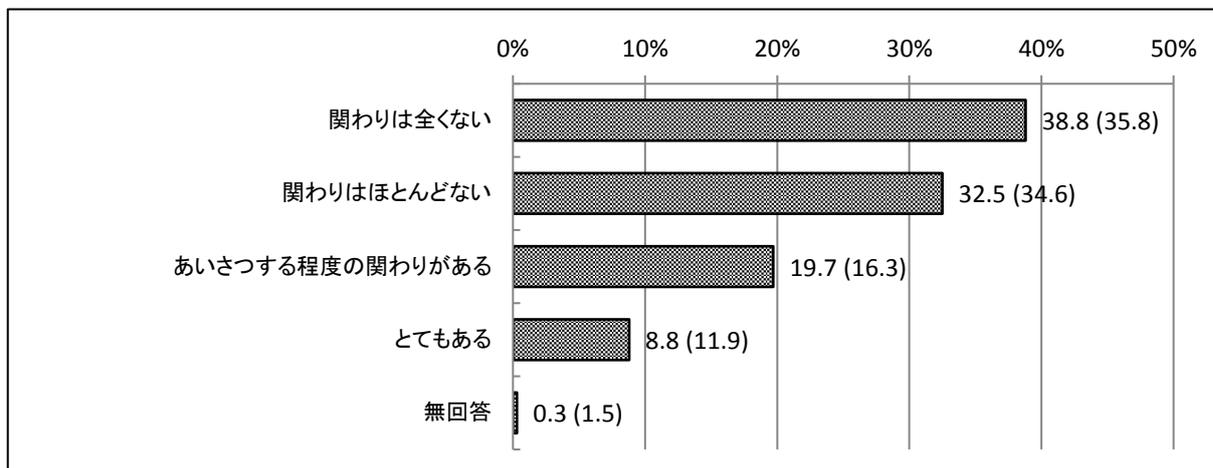
＜日常生活での外国人との関わり＞

「あいさつする程度の関わりがある(例 職場の同僚、よく行く店で働いている)」「とてもある(例 知人、友人、親戚等である)」が合わせて約3割

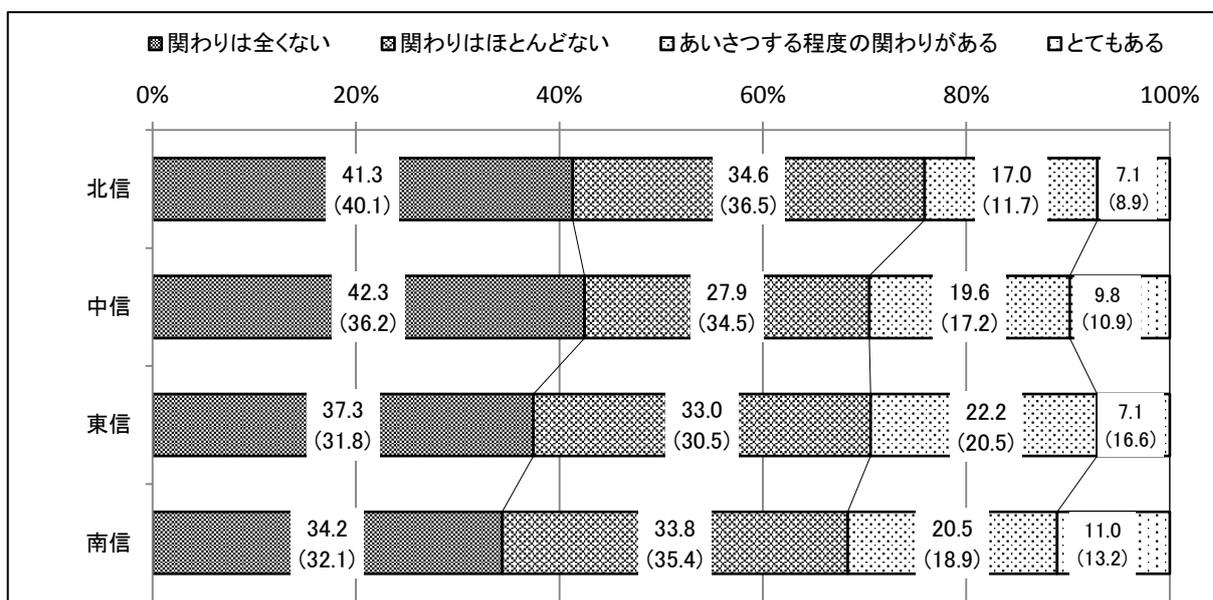
問5 あなたは、日常生活で県内に住んでいる外国人とどのような関わりがありますか。または、ありませんか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	H30年度 n=1,060		(参考) H25年度 n=827	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
関わりは全くない	411	38.8	296	35.8
関わりはほとんどない(例 顔を知っている程度、近所に住んでいる)	344	32.5	286	34.6
あいさつする程度の関わりがある(例 職場の同僚、よく行く店で働いている)	209	19.7	135	16.3
とてもある(例 知人、友人、親戚等である)	93	8.8	98	11.9
無回答	3	0.3	12	1.5

- 「全くない」が38.8%と最も高く、次に「ほとんどない」(32.5%)、「あいさつする程度」(19.7%)となっている。
- 「あいさつする程度」(19.7%)と「とてもある」(8.8%)を合わせると28.5%が日常生活で外国人と何らかの関わりがある。



- 「あいさつする程度の関わりがある」、「とてもある」を合わせた割合は、地域別では、南信が31.5%と最も高く、次いで中信(29.4%)、東信(29.3%)、北信(24.1%)となっている。



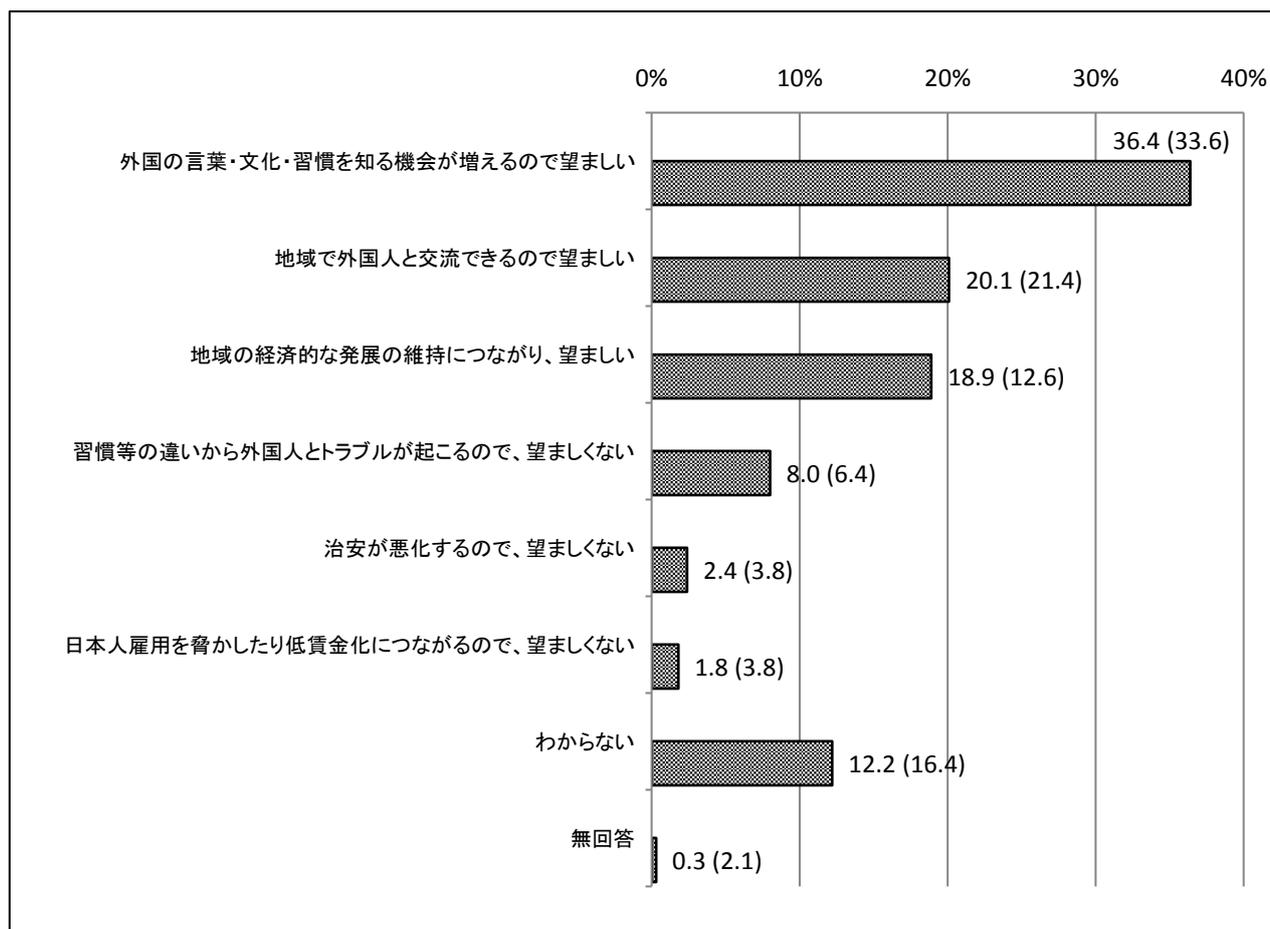
＜外国人とともに暮らす社会への意識＞

「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので望ましい」「地域で外国人と交流できるので望ましい」「地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい」が合わせて7割超

問6 あなたは外国人とともに暮らす社会についてどう思いますか。あてはまるものを選んでください。
(○は1つ)

	H30年度 n=1,060		(参考) H25年度 n=827	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので望ましい	386	36.4	278	33.6
地域で外国人と交流できるので望ましい	213	20.1	177	21.4
地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい	200	18.9	104	12.6
習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので、望ましくない	85	8.0	53	6.4
治安が悪化するので、望ましくない	25	2.4	31	3.8
日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるので、望ましくない	19	1.8	31	3.8
わからない	129	12.2	136	16.4
無回答	3	0.3	17	2.1

●「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので望ましい」が36.4%と最も高く、次に「地域で外国人と交流できるので望ましい」(20.1%)となっており、「地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい」(18.9%)を加えると、75.4%が何らかの理由で「外国人とともに暮らす社会について望ましい」と考えている。



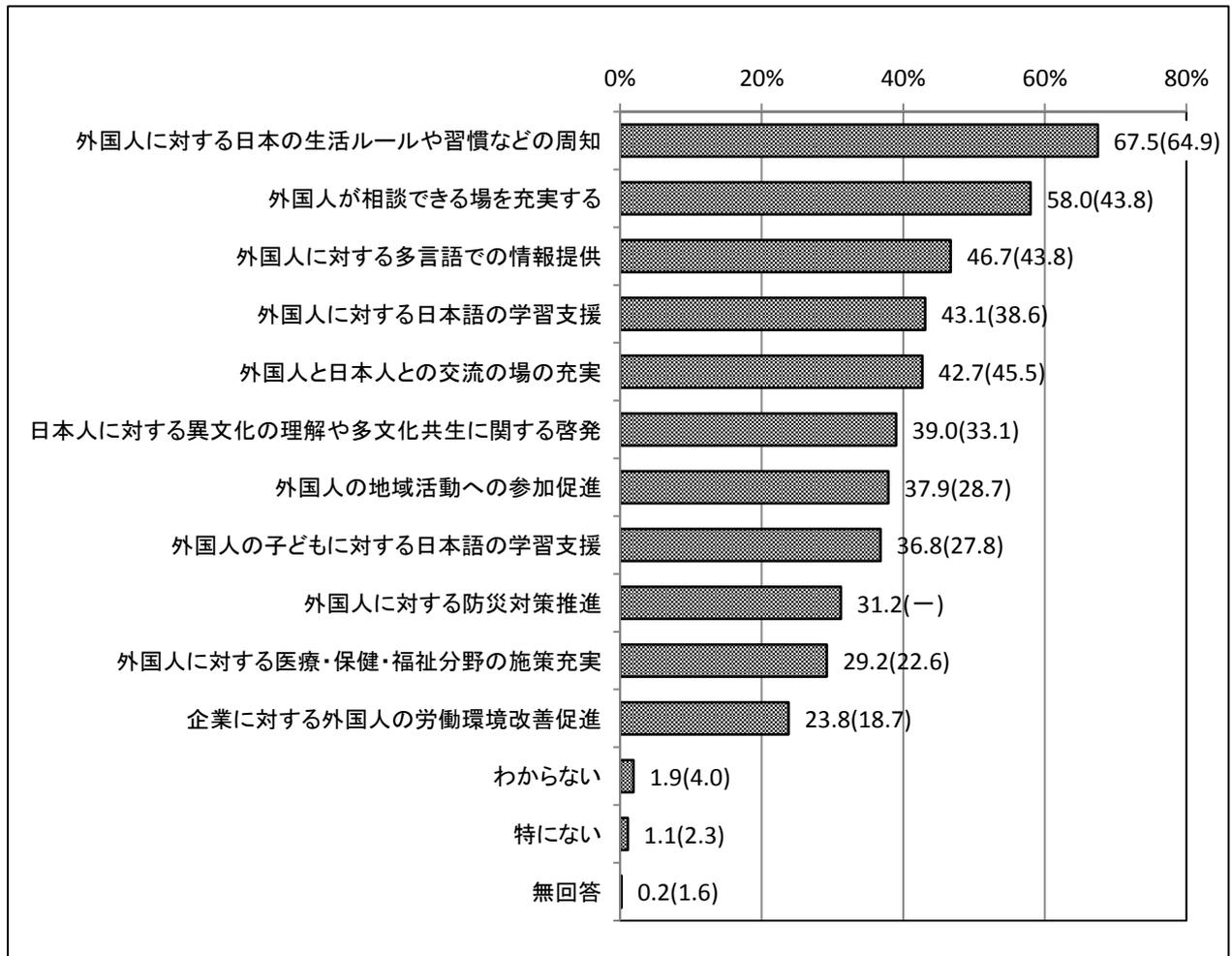
＜県や市町村が力を入れるべき取組＞

「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が約7割、「外国人が相談できる場を充実する」が約6割

問7 あなたは外国人とともに暮らしやすい社会にしていくためには、県や市町村はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	H30年度 n=1,060		(参考) H25年度 n=827	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	716	67.5	537	64.9
外国人が相談できる場を充実する	615	58.0	362	43.8
外国人に対し、多言語の情報提供を行う(行政サービス・案内表記 等)	495	46.7		
外国人に対し、日本語の学習を支援する	457	43.1	319	38.6
外国人と日本人との交流の場を充実させる	453	42.7	376	45.5
日本人に対し、異文化の理解や多文化共生に関する啓発を行う	413	39.0	274	33.1
外国人の地域活動への参加を促進する	402	37.9	237	28.7
外国人の子どもに対し、日本語の学習を支援する	390	36.8	230	27.8
外国人に対する防災対策を推進する(防災講座、防災訓練、避難情報の伝達 等)	331	31.2	-	-
外国人に対する医療・保健・福祉分野の施策を充実させる	309	29.2	187	22.6
企業に対し外国人の労働環境の改善を促す	252	23.8	155	18.7
わからない	20	1.9	33	4.0
特になし	12	1.1	19	2.3
無回答	2	0.2	13	1.6

●「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が67.5%と最も高く、次に「外国人が相談できる場を充実する」(58.0%)、「外国人に対し、多言語の情報提供を行う」(46.7%)となっている。



《信州あいサポート運動について》

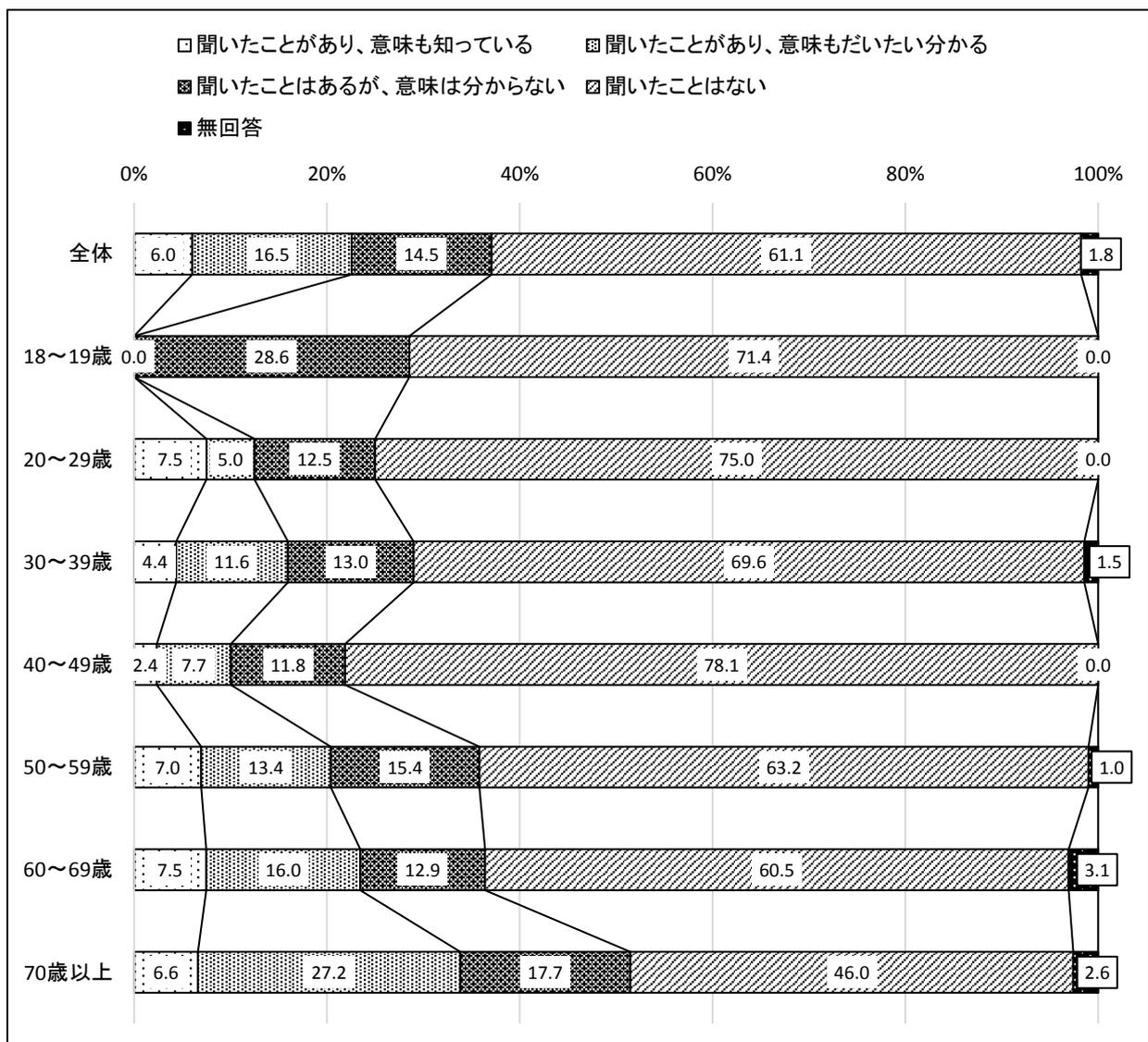
＜「信州あいサポート運動」の認知度＞

「聞いたことがあります、意味も知っている」「聞いたことがあります、意味もだいたい分かる」「聞いたことはあるが、意味は分からない」が合わせて4割弱

問8 「信州あいサポート運動(あいサポート運動)」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

	H30年度 n=1,060		(参考) H26年度 n=925	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
聞いたことがあります、意味も知っている	64	6.0	187	20.2
聞いたことがあります、意味もだいたい分かる	175	16.5		
聞いたことはあるが、意味は分からない	154	14.5		
聞いたことは知らない	648	61.1	734	79.4
無回答	19	1.8	4	0.4

●「聞いたことがあります、意味も知っている」「聞いたことがあります、意味もだいたい分かる」「聞いたことはあるが、意味は分からない」が合わせて37.0%となっており、「聞いたことは知らない」が61.1%となっている。



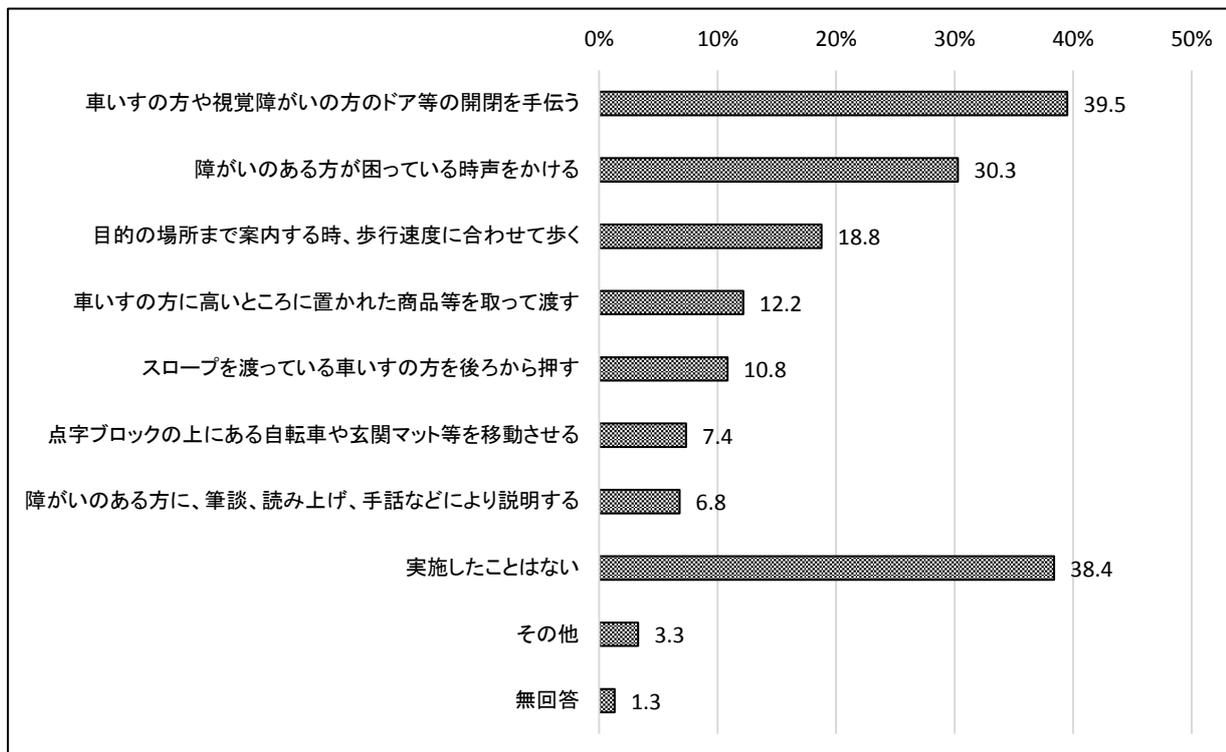
＜「信州あいサポート運動」の実施状況＞

「車いすの方や視覚障がいの方のドア等の開閉を手伝う」が約4割、「障がいのある方が困っている時、「何かお困りですか」等の声をかける」が約3割

問9 「信州あいサポート運動」について、次のような取組がありますが、実施していることはありますか。
(〇はいくつでも)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
車いすの方や視覚障がいの方のドア等の開閉を手伝う		419	39.5
障がいのある方が困っている時、「何かお困りですか」等の声をかける		321	30.3
目的の場所まで案内する時、障がいのある方の歩行速度に合わせて歩く		199	18.8
車いすの方に高いところに置かれたパンフレットや商品等を取って渡す		129	12.2
スロープを渡っている車いすの方を後ろから押す		115	10.8
点字ブロックの上にある自転車や玄関マット等を移動させる		78	7.4
障がいのある方に、筆談、読み上げ、手話などにより説明する		72	6.8
実施したことはない		407	38.4
その他		35	3.3
無回答		14	1.3

●「車いすの方や視覚障がいの方のドア等の開閉を手伝う」が39.5%と最も高く、次に「障がいのある方が困っている時、「何かお困りですか」等の声をかける」(30.3%)となっており、「実施したことはない」が38.4%となっている。



その他としては、「視覚に障がいのある方の道路横断を手伝った」、「仕事での身障者用駐車場案内」等の回答が見られた。

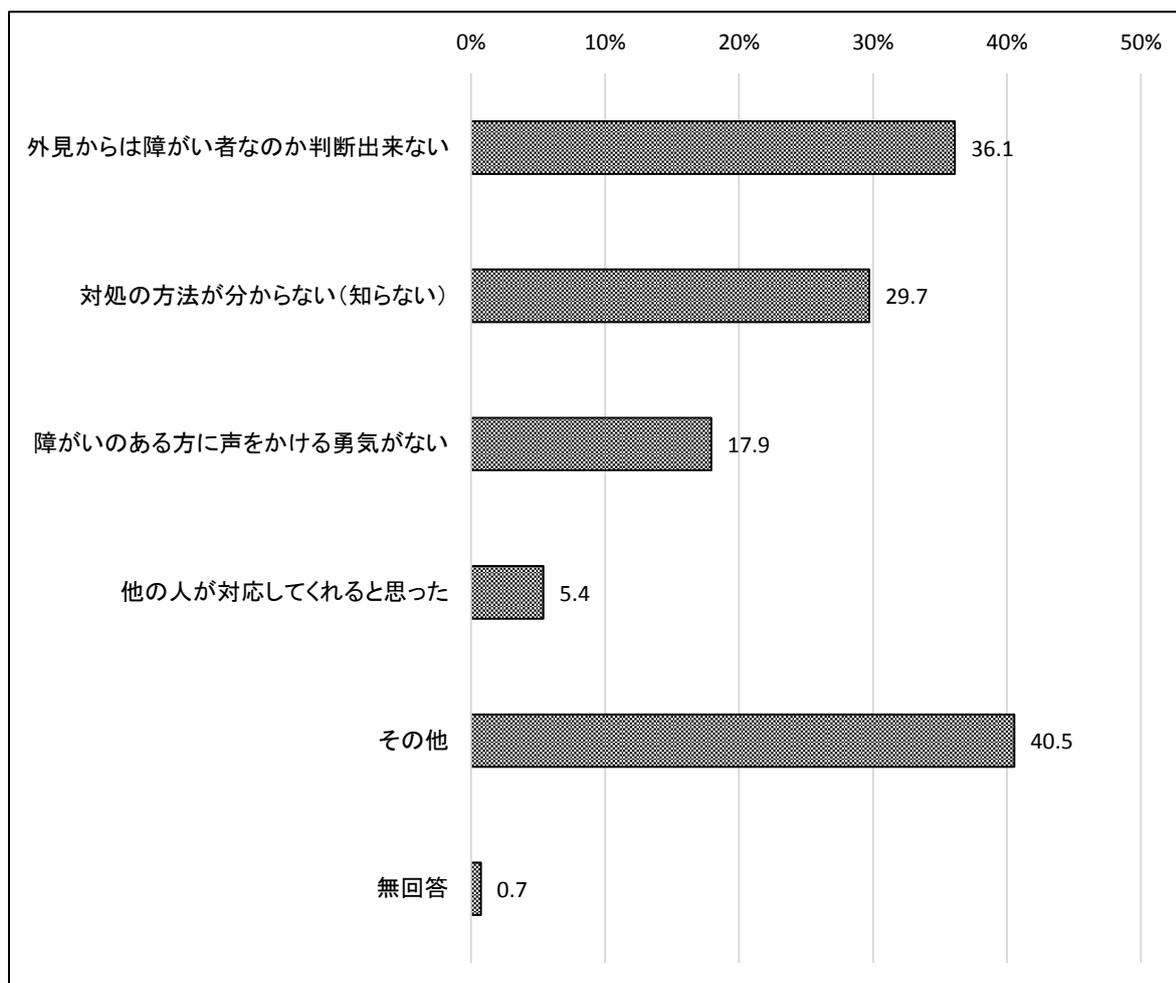
＜「信州あいサポート運動」を実施したことがない理由＞

「聴覚障がいの方や内部障がいの方など外見からは障がい者なのか判断出来ない」が4割弱、「障がいのある方への対処の方法が分からない(知らない)」が約3割

問10 問9で「⑨実施したことはない」を選ばれた方にお伺いします。
その理由について、あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 407	回答数 (人)	割合 (%)
聴覚障がいの方や内部障がいの方など外見からは障がい者なのか判断出来ない		147	36.1
障がいのある方への対処の方法が分からない(知らない)		121	29.7
障がいのある方に声をかける勇気がない		73	17.9
他の人が対応してくれると思った		22	5.4
その他		165	40.5
無回答		3	0.7

●「その他」を除き、「聴覚障がいの方や内部障がいの方など外見からは障がい者なのか判断出来ない」が36.1%と最も高く、次に「障がいのある方への対処の方法が分からない(知らない)」(29.7%)となっている。



その他としては、「そういった場面に遭遇していない」、「すでにサポートする人がいた」、「気を使わない方が良いと思い、何もしないことが多い」等の回答が見られた。

《ヘルプマークについて》

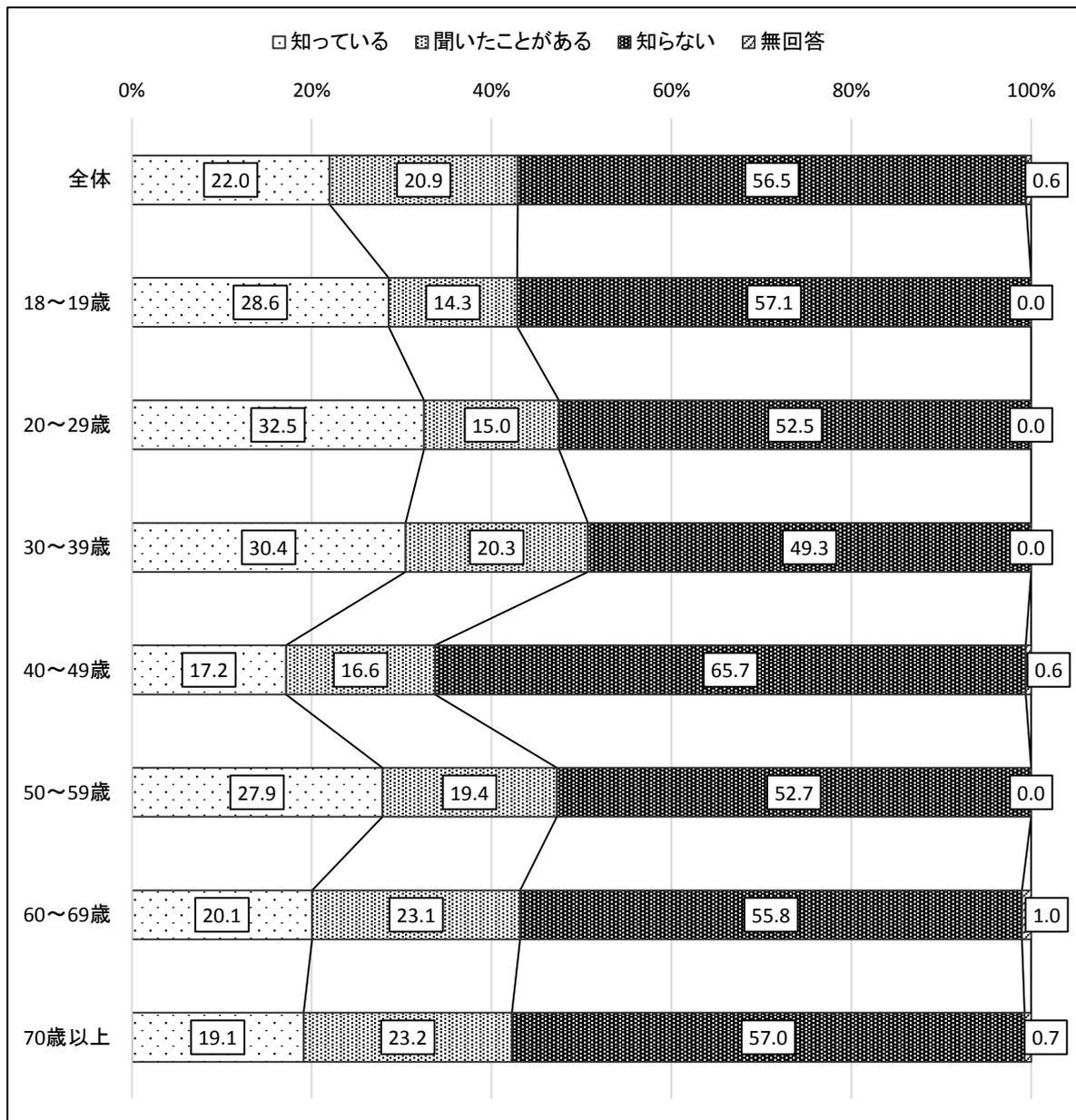
＜「ヘルプマーク」の認知度＞

「知っている」「聞いたことがある」が合わせて4割超

問11 「ヘルプマーク」を知っていますか。(〇は1つ)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
知っている		233	22.0
聞いたことがある		222	20.9
知らない		599	56.5
無回答		6	0.6

●「知っている」「聞いたことがある」が合わせて42.9%、「知らない」が56.5%となっている。



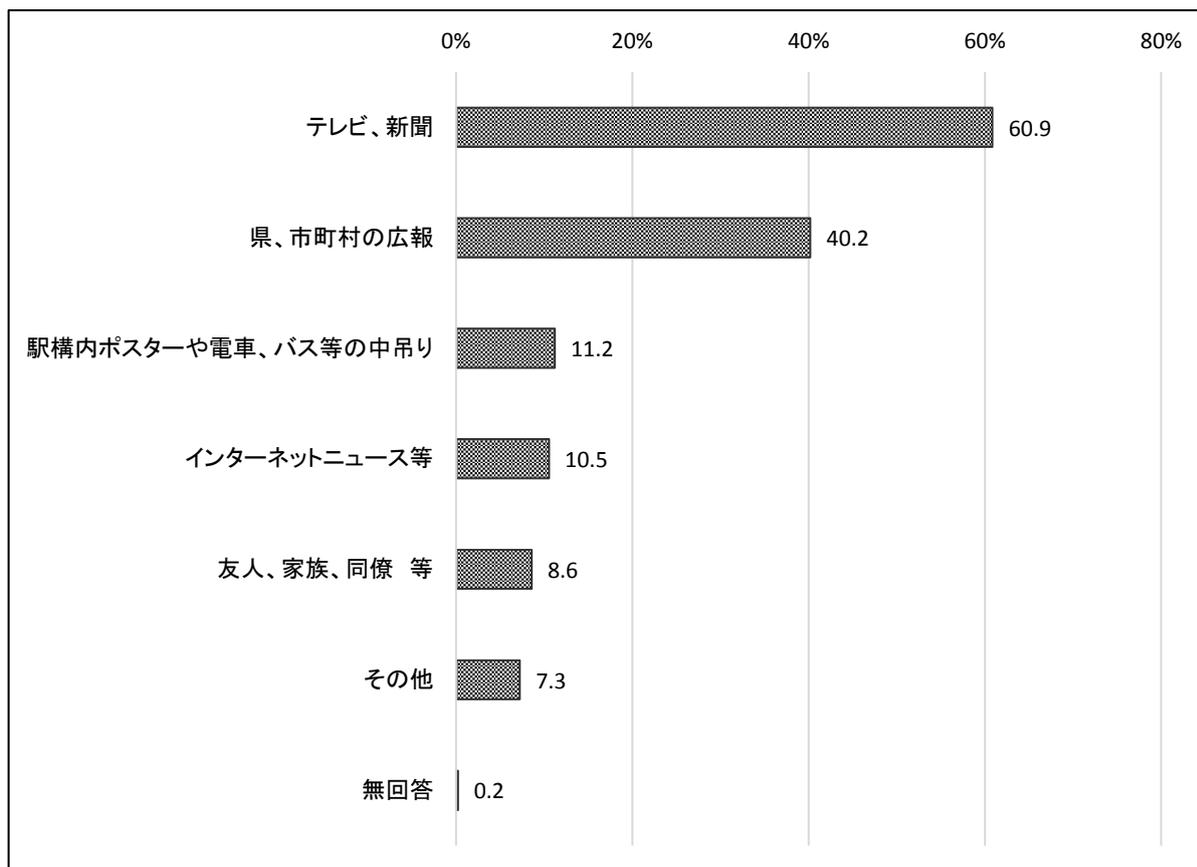
＜「ヘルプマーク」を認知した媒体＞

「テレビ、新聞」が約6割、「県、市町村の広報(ポスター、チラシ、広報誌、ホームページ等)」が約4割

問12 問11で「①知っている」「②聞いたことがある」を選ばれた方にお伺いします。
どこで「ヘルプマーク」を知りましたか(聞きましたか)。(〇はいくつでも)

	n= 455	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ、新聞		277	60.9
県、市町村の広報(ポスター、チラシ、広報誌、ホームページ等)		183	40.2
駅構内ポスターや電車、バス等の中吊り		51	11.2
インターネットニュース等		48	10.5
友人、家族、同僚 等		39	8.6
その他		33	7.3
無回答		1	0.2

●「テレビ、新聞」が60.9%と最も高く、次に「県、市町村の広報」(40.2%)、「駅構内ポスターや電車、バス等の中吊り」(11.2%)となっている。



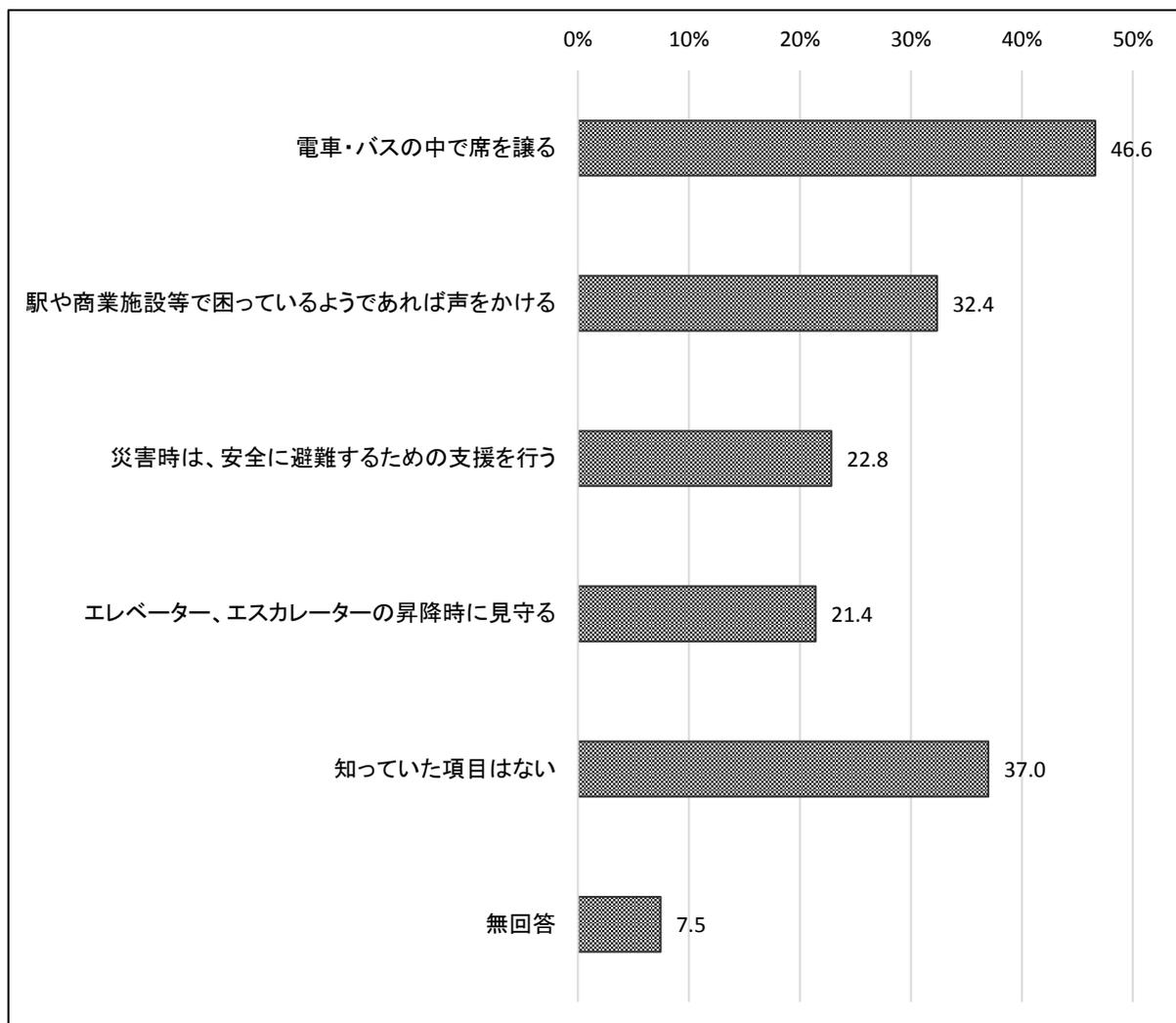
その他としては、「インターネット動画サイト」、「ツイッター、フェイスブック等のSNS」、「職場」等の回答が見られた。

＜「ヘルプマーク」着用者に必要な援助・配慮で知っていたもの＞
 「電車・バスの中で席を譲る」が5割弱、「駅や商業施設等で困っているようであれば声をかける(大丈夫ですか。何かお困りですか。等)」が約3割

問13 「ヘルプマーク」を着用された方を見かけた時、次のような援助や配慮が必要となりますが、知っていた項目はありますか。(〇はいくつでも)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
電車・バスの中で席を譲る		494	46.6
駅や商業施設等で困っているようであれば声をかける(大丈夫ですか。何かお困りですか。等)		343	32.4
災害時は、安全に避難するための支援を行う(誘導、情報伝達 等)		242	22.8
エレベーター、エスカレーターの見守り		227	21.4
知っていた項目はない		392	37.0
無回答		79	7.5

●「電車・バスの中で席を譲る」が46.6%と最も高く、次に「駅や商業施設等で困っているようであれば声をかける」(32.4%)となっており、「知っていた項目はない」が(37.0%)となっている。



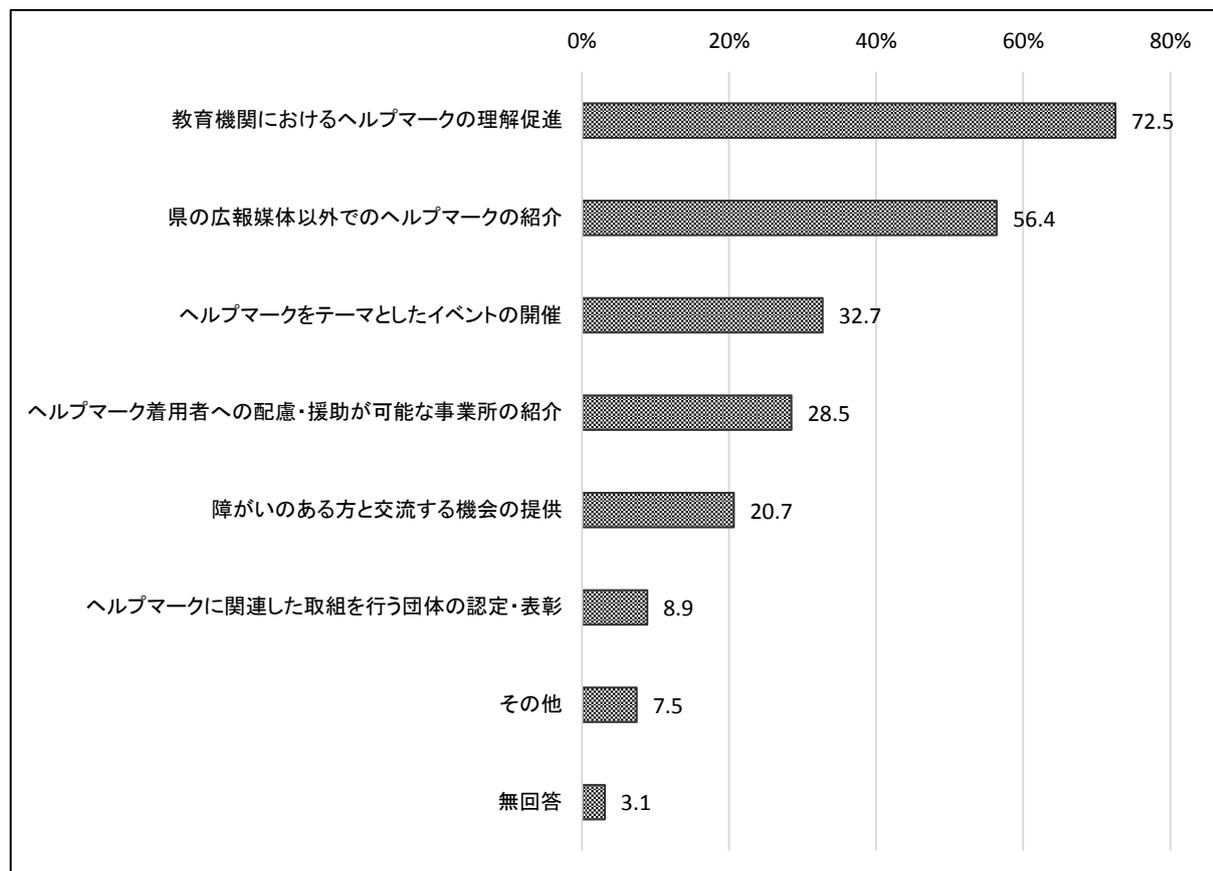
＜「ヘルプマーク」の普及に向けて優先すべき取組＞

「教育機関におけるヘルプマークの理解促進」が約7割、「県の広報媒体以外でのヘルプマークの紹介」が6割弱

問14 今後のヘルプマークに対する理解促進とヘルプマークの普及に向けて、どのような取組を優先的に行うべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

	n= 1,060	回答数 (人)	割合 (%)
教育機関におけるヘルプマークの理解促進		769	72.5
県の広報媒体以外でのヘルプマークの紹介		598	56.4
ヘルプマークをテーマとしたイベントの開催		347	32.7
ヘルプマーク着用者への配慮・援助が可能な事業所(ホテル、レストラン等)の紹介		302	28.5
障がいのある方と交流する機会の提供		219	20.7
ヘルプマークに関連した取組を行う団体の認定・表彰		94	8.9
その他		79	7.5
無回答		33	3.1

●「教育機関におけるヘルプマークの理解促進」が72.5%と最も高く、次に「県の広報媒体以外でのヘルプマークの紹介」(56.4%)、「ヘルプマークをテーマとしたイベントの開催」(32.7%)となっている。



その他としては、「マスメディア、SNSによる周知」、「市町村での広報活動」、「地域活動(防災訓練、公民館活動など)での周知」等の回答が見られた。